



第54号
平成26年8月
発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
電話 0478(52)1000



☆「佐原三菱館」建設百周年☆

消え行く歴史を呼び戻す機会に

明治十三年(一八八〇)に川崎銀行佐原出張所が開設、大正三年(一九一四)に赤レンガの建物が清水滴之助商店(現清水建設)により新築されました。建設百周年を迎えた「佐原三菱館」について、「小野川と佐原の町並みを考える会」の高橋賢一理事長にお話を伺いました。

唯一大きな取引を扱える都市銀行であり、佐原が当時の地域経済の中心にいたことを証明するシンボリックな存在であった。昭和三十年代、高度成長期に備えて東西と南面を増築。大改築の際、螺旋階段が取り払われたと思われる。昭和六二年頃に

『調査の過程で、川崎財閥の佐原への思い入れがいかに大きかったかが分かった。佐原支店の営業成績が支店中二番といわれた時代、清水建設が佐原の地に建築史的に意味のある赤煉瓦の建物を残してくれた。東京駅の設計者辰野金吾氏の古典的建築の流れを追う事も出来る。成田を含め北総から鹿島までの商圈中、川崎銀行佐原支店は



佐原三菱館建設100周年記念展会場

平成十七年(二〇〇五)に三菱銀行佐原支店が「佐原町並み交流館」として開館してから、今年で十周年を迎えることができました。五月十三日(火)〜六月二日(月)は佐原切り絵作家・野口正博さんご指導による「切り絵佐原町並み教室生徒作品展」を開催。一般来館者の皆さんに切り絵体験を楽しんでいただきました。六月十日(火)〜二十九日(日)は県指定伝統工芸師・鎌田芳朗「佐原



鎌田芳朗・佐原張子展

張子人生六十周年展」を開催。張子体験教室にも多くの方が参加していただき大成功でした。七月一日(火)〜二七日(日)は「佐原の光景写真展」を開催。三軌会写真部千葉支部他の沢山の作品展示と「香取神宮・神幸祭展」も同時展示し、また「佐原町並み交流館写真教室」生徒作品には参加賞と特別賞を用意させていただきました。このように本年度は、色々と十周年記念企画を用意しております。交流館二階の貸し出しも多様な集まりに利用されております。来館者との交流と観光案内所としての触れ合いを大切と心がけております。今日までの歩みは、すべて多くの方々と共に市民のご協力あつたことと御礼申し上げます。今後共、よろしくご指導のほどお願い致します。(館長・小林和男)

「佐原町並み交流館」開設十周年
さらに市民・観光客に親しまれる場へ

赤煉瓦の周囲を取り払い、平成元年に新館ビルへと移動した。この百周年が、「佐原三菱館」の歴史を正しく知っていただく

絶好の機会になったと思う』
明治・大正期の佐原を再現
展示準備委員長の佐藤清さんは「明治から昭和初期の佐原の繁栄ぶりを写真で紹介いたします。また詳細な銀行の歴史を解説したパンフレットも会場に用意しました」と話しています。



熱の入った講習会の様子

第十期・定期総会終わる
さる五月二三日(金)午後五時より佐原町並み交流館において、「特定非営利活動法人・小野川と佐原の町並みを考える会」の第十期の定期総会が行なわれました。
AED応急手当講習会
七月二八日(月)午後一時から四時まで、佐原消防署三階の講習室でAED応急手当講習会が行なわれ、NPO会員十九名が参加しました。

会員の研修旅行

織物の町・結城市を訪ねて

平成二六年三月二日(日)午
前八時三十分には香取市役所をバ
スで出発し、十一時頃結城市役
所に到着しました。参加者は二
班に分かれて、待ち受けてくれ
ていたボランティアの方に案内
をしていただきました。

「つむぎ館」では結城紬の鑑
賞と同構内の「歴史館」では結
城の過去の繁栄ぶりを見学しま
した。

明治四十年十一月の陸軍特別
大演習の折、東郷平八郎元帥が
宿泊したという古い商家・鈴木
新平商店では若主人さまからは



「つむぎの館」の正面入り口にて

貴重な織物や繁栄の歴史につい
て詳しい説明があり私達の質問
にも快く応じてくださいました。

結城市ゆかりの「初代朝光公」
の墓のある称名寺を見学後、老
舗の菓子店や味噌商店で買利物
を楽しみました。

「老の蔵」で昼食し各々が事
前に予約した体験学習の場に散
り、ゆで饅頭、桐下駄鼻緒付け、
繭のマスコット、桐のリモコン
ラック作りなどに挑戦しました。

参加者は観光ガイドや町並み
保存や「おもてなし」体験を通

し、多くを学んだ一日でした。



老舗・鈴木新平商店で貴重な織物を拝見

結城市の研修で思ったこと

功 造 玉

「雑めぐり」に一工夫を期待

「結城の雑まわり」については、昨年実施さ
れた真壁での研修でも同じような感じをもった
のだが、観光客の目線に立った工夫がなされて
いる点では大いに感銘した。マップもイメージ
優先でなく、利用者にはわかり易く使い易かつ
たのがよかった。マップ上の番号が店頭に大き
く掲示され、また雑人形も見世蔵などの店先に
観光客の見易いように飾られていたのが印象的
で好感がもてた。

茨城県の公式観光情報サイトである「観光い
ばらき」によると、今年には茨城県内では十九ヶ
所で「雑まわり」イベントが実施されたという。
これからも相変わらずお客様に楽しんでいただ
けるように、「佐原の雑巡り」にもさらなる一
工夫がなされるよう期待する。

佐原町並み交流館 主な館内行事(3月以降)

- 二月八日(土)～三月三日(日)
第九回さわら雑めぐり
「地域のおひなさま展」
- 二月二三日(日)
- 佐原町並み号ボンネットバスで巡
る佐原のまち。以下、三月二九日
(土) 三十日(日)、四月五日
(土)、五月二五日(日) 実施
- 三月八日(土)
- 歴史講演会・八重の桜の背景「会
津藩の悲劇」、講師・福田嘉文

対象年齢の表示がほしい

「ゆうき物産まつり」では、駅前の複合施設
である「結城市民情報センター」に出かけて、
特産品の結城紬や桐工芸の製作体験や「ゆでま
んじゅうづくり」などを体験した。

「桐下駄の鼻緒付け体験」はなかなか手ごた
えのある体験だったようだが、小生が体験した
「桐のリモコンラック作り体験」は、すべての
パーツをボンドで接着するだけのものだったので、
ものの五分で作業は終わってしまったので、
少しあっけなかつた気がした。千葉県「房総
の村」のように「小学生低学年向き」といった
対象年齢の表示がほしいところである。
事前申し込み制であるためか「結城の雑まわ
り」の観光客が、その場で随時に体験するわけ
にはいかないのが惜しい気がした。

○三月三十日(日)

第三回佐原町並み写真教室

「さくら」の撮影を楽しむ

NPO法人・小野川と佐原の町

並みを考える会「体験事業企画」

講師・日本写真協会会員池谷眞男

○四月一日(火)～三日(水)

佐原工芸作品展、ミニチュア佐原

山車発表展示会、橋本京子ドール

ハウス展

○四月五日(土)～五月十一日(日)

佐原五月人形めぐり

○五月十三日(火)～六月二日(月)

佐原町並み交流館十周年記念事業

切り絵作家・野口正博作品展

体験教室、十八、二五、六月一日

○六月三日(火)～八日(日)

新緑盆栽展

○六月七日(土)

歴史講演会・忘れられた幕末の

偉人「小栗上野介」講師福田嘉文

○六月十日(火)～二九日(日)

佐原町並み交流館十周年記念事業

張子人生六十周年記念展

千葉県伝統工芸師・鎌田芳朗

○七月一日(火)～二七日(日)

佐原町並み交流館十周年記念事業

佐原の光景写真展、同時開催佐原

町並み交流館写真教室生徒作品展

○八月三日(日)

身近にお茶を楽しむ会

主催・香取市国際交流協会

○八月四日(月)～二四日(日)

「佐原・大祭・母と子と」

朱葉会・北澤聖江の展



東日本大震災復興3周年報告会

震災以前に戻る

平成二六年三月十八日午後四時から佐原町並み交流館にて、東日本大震災復興三周年の報告会が開かれました。

佐原地区は震度5強の揺れによって、市内各地で大きな被害がありました。町並み保存地区の多数の建造物、特に有形文化財の損傷は大きく、復旧は不可能ではという絶望感が漂っていました。市民の素早い立ち上がりで、数日後から会議を重ねて積極的に関係当局と折衝を重ねました。

幸いにも、国、県、市をはじめ市民や各界から多大なご協力をいただき、町並み保存地区の復旧が着々と進みました。

報告会で挨拶する高橋理事長



新たな可能性を求めて一歩先へ

佐原を世界へ発信

特にWMF（ワールドモニュメント財団）やアメリカン・エクスプレスの支援を受けて佐原の町並み保存の取り組みが世界に発信される契機となりました。震災後三年を経過して、WMFへの最終「報告書」提出を機に、「東日本大震災復興三周年報告会」を開催することとなりました。

記念講演「文化遺産復旧から新たな可能性」の中で稲垣光彦（みつお）氏（WMF日本代表）は、米国や日本各地の地震後の復興の取り組みの歴史を辿り、国対国の支援ではなく、官と民とを合わせた文化遺産復旧・保存の現状と将来を語りました。講演の冒頭、佐原の復旧・復興がニューヨークでも良い事例の一つとして強い印象をもって

講演する稲垣WMF日本代表



骨董市が100回目の開催

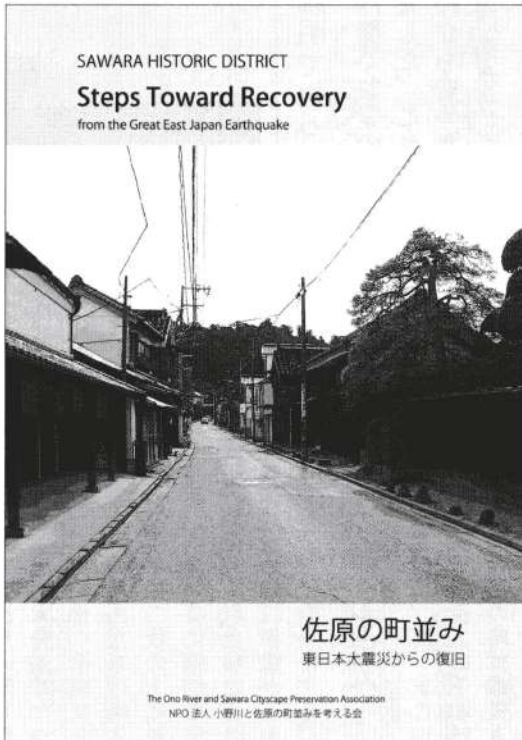


100回目開催八坂神社前の朝

平成十八年六月四日、本宿八坂神社境内において始まった佐原の骨董市が、いよいよ今年八月三日の開催をもって百回目を迎えました。すでに平成二三年十一月、来場者が九万人を突破、徐々に恒例行事として定着してきています。開催百回を祝いで来る十月の開催日には記念イベントを行なう予定です。

事務局長・佐藤健太良談

「香取街道の三菱館より東の



最終報告書の表紙(日本語と英文のDVD付)

受け止められていることにも触れ、東北の人達が幅広い支援により復興の意欲を取り戻し元気になっていく姿をビデオで紹介しました。

WMFへ最終報告書提出
WMFへの最終報告書「佐原の町並み・東日本大震災からの復旧」が完成し、WMF及びアメリカン・エクスプレス財団に提出されると同時に会員にも配布されました。

方向に人の流れ、観光客の流れが少なくという指摘があつて、我々「考える会」と市役所とが共同で、八坂神社を会場にして骨董市を開催することが具体化しました。
毎月第一日曜日の開催を原則としてやってきました。準備が大変ですから、回数を重ねるたびに大変きつい時もありましたが、やっとこの八月三日の開催で百回目を迎えることができました。ことはとてもうれしいです。」



伊能忠敬旧宅見学会 6/28



小野川清掃 6/25

町並みを歩いて(その十) 重伝建地区の隠れた魅力を発掘

丸型郵便差出箱

佐原の重伝建保存地区を訪れる観光客に人気のあるのが赤い丸型郵便ポストです。

この型のポストは昭和四十年代から徐々に箱型に変わっていきましたが、幸いにも佐原郵便局の計らいで、その懐かしい姿を今でも見ることが出来ます。

最初の赤い丸型ポスト(鑄鉄製)は発明家・俵谷高七(「自動販売機」も考案)がデザインし、明治三四年十月に日本橋の北側に設置されました。また、少し不便な部分を改良した中村幸治という人の中村型ポストが

十一月に同じ場所の南側に設置され、これが丸型ポストの原型で、京都女子大の建学記念館に一基だけが保存されています。戦中はコンクリート製。昭和

二四年頃より現在見られる鉄製の丸型ポストが全国に設置されていきました。しかし老朽化と利便性から、今ではシンプルな箱型ポストに交代しました。昭和のシンボルの存在である赤い「丸型ポスト」は、佐原の町並みにふさわしい建造物です。

全部で八基(一基は不使用) 小野川沿いでは、一蘭荘前に一基、鈴木全一郎前に一基。き



佐原の町並みに似合う丸型ポスト

めら事務所前の一基は使用不可。香取街道沿いでは、正文堂前に一基、馬場酒造前に一基、八坂神社前・岡澤酒店角に一基。浄国寺前・佐原小側十字路角に一基。佐原駅前交番横に一基。計八基を探し当てて下さい。

佐原を誇りに思う気持ちが伝わった

明快な説明を聞いて佐原の町の歴史のすばらしさを感じました。地域を誇りに思うガイドのお仕事に頭が下がる思いです。

(田舎の学校事務局)

観光案内に感謝の礼状(その12)

ガイドの勉強になった

全国どんな町でも観光案内ボランティアが行なわれて皆さんが抱えきれないほどの資料をかかえてやっておりますが、佐原の皆様は弁舌さわやか。学ぶ所が沢山ありました。

(水戸市市民観光ボランティア)

ガイドの説明で知った細かな歴史

単独で行っては聞くことの出来ないお話を聞かせていただきました。これも夫婦で当地を訪れた際に交流館に立ち寄った縁だったので感謝です。

(市原市ボランティア連絡協議会)

ガイドさん達の健脚と博識に驚き

ガイドの方々の方々の健脚と博識にはただただ感心するばかりでした。伊能忠敬を愛される気持ちが伝わり、私も忠敬翁についてさらに勉強してみようと思えます。

(野田市)

伊能忠敬の全国測量(第一次測量の②)

ニシベツ(別海町)迄、間宮林蔵との出会い

長助を江戸へ帰す

寛政十二年五月十九日(現七月十日)津軽海峡を渡り吉岡(北海道福島町)へ。三日目に徒歩でやっと箱館着。馬、人夫、宿舎手配の先触れ、

下船の際の観測器械部品の置き忘れの処理など多忙。骨折した門倉と平山の療養もあつたか。二五日の朝、突然下僕長助が病気を申し立てた。三厩への乗合い船があるのを幸い船賃・路金を与えて江戸へ帰した。忠敬は北極星が大分高くなったことに驚いた。蝦夷地の冷気にも。土用前でも土地の役人たちは綿入れだが忠敬らは上下袴二枚の上に単衣という始末。六月一日に箱館の先、一の渡村の測量家・村上嶋之丞の従者で十九歳(または二四歳か)の間宮林蔵と運命的な出会いをする。

北方の島々を望みつ

蝦夷の測量は山、海、また山と難所多く、人夫、村役人の手助けをうけ、さらに悪行路の時は蝦夷人の案内をつけた。草履が切れて裸足で暗闇を進み、会所の役人が御用提灯で出迎えに来てくれたこともあつた。ドブイでは蚊にも悩まされた。

八月七日にニシベツ着。ネモロやクナシリ島を近くに望みながらも鮭漁最盛期ゆえ人夫もなし。来年の蝦夷測量を誓い引き返す決断をし、往路とほぼ同じ道を辿り、測量の正確

さを期した。一日当りの移動距離約二五キロであった。

岩沼の渡邊家の墓に詣でる

岩手はずでに雪。十月五日に陸奥国岩沼で、寛政六年に奥州旅行の途次、渡邊家で亡くなって同家の墓に埋葬されていた佐原の酒屋伊能四郎兵衛(十四代)の墓前に詣でた。

蝦夷地南東部の地図を作製

十月二十一日(現十二月七日)江戸帰着。出発から百八十日(一日平均歩測距離は十八キロ)。

十一月初めより地図作製を開始。津宮の久保木清淵、門倉隼太、平山群蔵、妻榮らの手伝いで十二月二十日に小図一枚、大図二十一枚完成。

肝心の子午線一度の距離は二七里余(約一〇八キロ)で、二八・二里の数値は、歩測でなく間縄を使った第二回目の測量結果で算出される。

間宮林蔵の蝦夷測量

林蔵は江戸の忠敬の家で天体観測を学び、蝦夷の測量記録を忠敬に届けた。忠敬は残りの蝦夷測量を林蔵に任せた。完成した日本地図の蝦夷地が「伊能・間宮図」といわれる所である。林蔵が禁を破りカラフト探検に向うのは文化六年(一八〇九)で、忠敬は山陽道から九州に入った。